

事項	斑点米カメムシ（アカヒゲホソミドリカスミカメ）の増殖に及ぼす温度の影響		
ねらい	斑点米カメムシの主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメは高温で多発することが知られているが、これまでイネ幼苗を餌に飼育した場合には高温が産卵に影響を与えないという知見があった。しかし、今回、好適な餌である麦の幼苗やスズメノカタビラを与えて飼育し、温度と産卵や発育との関係を検討した結果、高温で増殖率が高くなることが明らかになったので、防除対策上の参考に供する		
指導参考内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 アカヒゲホソミドリカスミカメは高温になるほど増殖率が高くなる。 2 卵から成虫までを19℃、25℃及び30℃の恒温条件で飼育した場合、雌成虫の産卵数は19℃に比べ25℃で1.7倍程度、30℃で2.1倍程度となる。 3 高温になるほど卵及び幼虫期間が短くなり、成虫になってからの産卵開始日数は早まるとともに、短期間に集中した産卵が見られる。 		
期待される効果	気温による発生変動を予測できるので、適切な防除対策を行うことができる。		
利用上の注意事項			
担当	青森県農業試験場 病害虫防除室	対象地域	県下全域
発表文献等	平成13～14年度 青森県農業試験場試験成績概要集		

【根拠となった試験結果】

表1 アカヒゲホソミドリカスミカメの発育期間及び産卵数と温度の関係
(平成13~14年 青森農試)

温度 (°C)	卵期間 (日)	幼虫期間 (日)	成虫になってから 産卵開始までの日数	雌1頭当たりの 産卵数
19	15	29	8	102
25	7	14	4	177
30	5	10	3	216

- (注) 1 処理温度は恒温
2 卵期間及び幼虫期間等の数値は平均値を示した

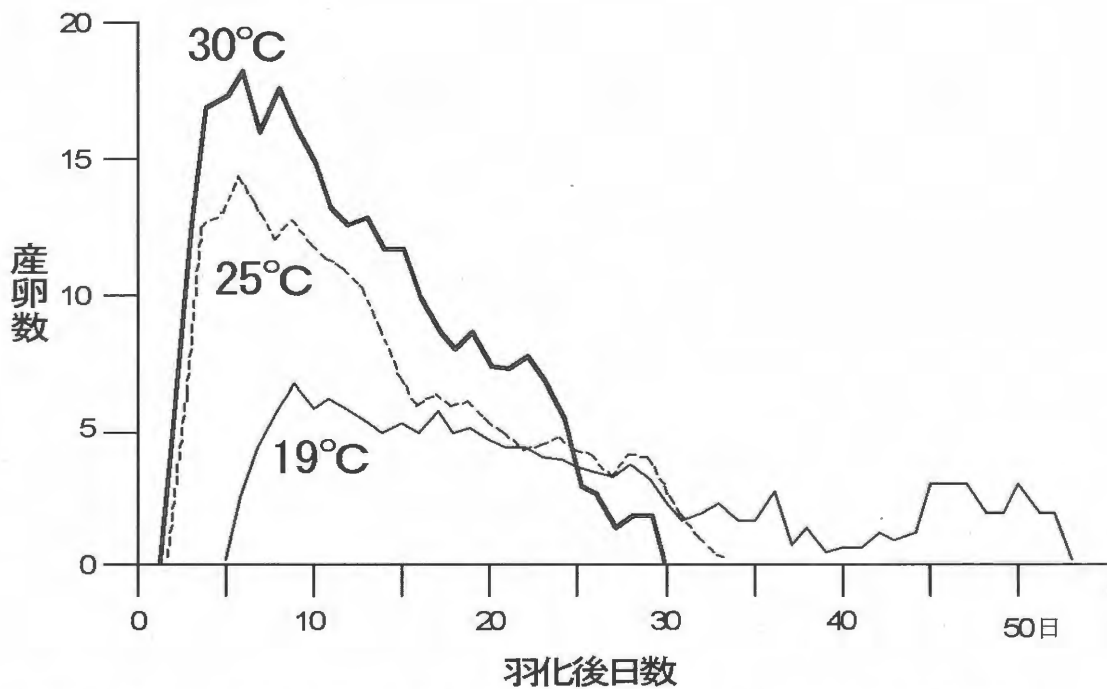


図1 異なる温度条件におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの産卵数の推移
(平成13~14年 青森農試)